タイトル

　　　　　　　　　　　　　　　ターボ 花子\*1、機械 義男\*2

英文タイトル

Hanako TURBO　Yoshio KIKAI（苗字は大文字で記入ください。）

\*1 ターボ機械協会　事務局（所属を記入ください。）

E-mail：turbo-so@pop01.odn.ne.jp

\*2 日本工業出版(株)

 アブストラクト：（英文） 論文は必須　それ以外は省略可

Keywords：（英文）論文は必須　それ以外は省略可

本文（本文は右インデントの位置を変えて21文字で改行になるよう設定してください。）

１．まえがき

まえがきから記載して下さい（論文などは緒論や緒言など）。以下は、ターボ機械誌の執筆要領を転記します。以下の要領でご記入ください。

１－１ 一般事項

（1）ターボ機械協会から送付される原稿表紙に必要事項を記入すること。

１－２ 記載留意事項

（1）掲載欄

①掲載欄は該当するものを○印で囲むこと。

（2）題目

①題目は執筆内容を明確に示し，しかも簡潔なものが望ましい。

ア．非常に一般的で，単行本の題目となるようなものは避ける。

イ．必要に応じて，副題をつけることもできる。

ウ．会社名、製品名を題目に使用しないように配慮する。

（3）英文タイトル

①英文タイトルは必ず記入する。

②英文タイトルは和文タイトルの直訳である必要はないが，同一内容とすること。

③英文タイトルは以下の細則によること。

ア．タイトルの各単語（途中にくる冠詞、前置詞などを除く）の先頭の文字は大文字で表記する。

図・表を入れたいところの近くに記載

表・・・Table.1

図・・・Fig.1

イ．ハイフンを用いて作られる複合語は原則として一般的に用いられている単語に限ること。

また、ハイフンの後は大文字にすること。

ウ．現在分詞、過去分詞の頭文字は大文字とするが、including、excludingなどの前置詞として使用される



Fig.1（英文キャプション）

言葉は小文字とすること。

あくまでも一例です

エ．inside、outsideを名詞、形容詞、副詞として使う場合は大文字とし、前置詞として使う場合は小文字とすること。

オ．和文でかぎ括弧「　」を使用している場合、英文ではダブルクォテーション“　”を使用すること。

カ．TurbomachineryはTurboとmachineryで分けずに一語にすること。複数形は使用しない。

キ．可算名詞が単数形の場合、不定冠詞aもしくはanを付けること。

ク．不可算名詞の前には冠詞を原則として付けないこと。

ケ．定冠詞theは必要と判断される場合に付けること。例えば、タイトルの中で前出の場合、最上級の形容詞と共に使う場合、唯一の物や人に使う場合など。

（4）執筆者および連名者

①著者英文名(執筆者および連名者)は名，姓の順とし，名は最初の文字のみ大文字，姓は全て大文字で表記する。

例 機械 太郎 → Tarou KIKAI

②著者の勤務先は事業所名，学部名またはこれに準じる名称まで記入する。

例 ○○機械㈱ ○○事業所 または

 ○○大学※１ ○○部

※１大学大学院 大学 大学院 の区別がわかるように明記する。

③退職している場合は，差し支えない限り旧勤務先を記入する。

（5）連絡先

①代表者（連絡先）がE-mail アドレスを所有している場合は記載すること。このアドレスは照会等に用いられると共に各記事の第１ページ脚注に掲載される。

②E-mail アドレスの記載を希望しない場合は「掲載不可」に○印すること。

（6）機種別分類および現象別分類

①該当する機種および現象をTable.1から選び，記入欄に機種記号と現象記号を組み合わせた形体で記載すること。

Table.1　 Classification by machine type and classification by phenomenon



2．主な記号

*b* ：（例）羽根車出口幅

*F*0：代表流体力　=*Rt*2*b*2

*p* ：圧力

下付き文字

*d*：設計点

*max* ：最大値

*r* ：半径方向

**：周方向

3．実験の方法と結果(例）



Fig.2 Experimental System(*D*=150mm)

3-1　図、表

図の参照はFig.2 のように書く。

あくまでも一例です

表の参照はTable 1のように書く。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

3-2　数式についてl

本文中の数式は*F*0=*Rt*2*b*2のように斜体で示す。ただし単位記号と元素記号、数字は立体で示す。

番号のついた数式は

　　（1）

のように示す。これを式(1)のように参照する。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

４．〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

５．顔写真

Fig.3　 Your face photo data

（1）顔写真の要否は下記による。

掲載内容 顔写真の要否

論文 　不要

展望・解説 　要

技術資料 　不要

随筆・サロン 　要

分科会報告 　分科会の意向による

製品紹介 　不要

（2）入稿方法

①基本的に電子データとする。

②形式はeps,jpg,tiffのいずれかとする。

③画質は350dpi以上の解像度とする。

④データがない場合はプリント写真（カラー・白黒どちらでも）可。

⑤写真のサイズ等はFig.3による。

⑥顔写真は筆者全員分必要。

⑦〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

６．おわりに または 最後に

論文は結論としていただきても結構です。おわりにや結論の後に参考文献を書く。参考文献の前に謝辞などを記載しても結構です。〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

文献は次の記載方法による。

＜雑誌の場合＞

①著者名，②題名，③雑誌名，④巻数―号数（発行年－月），⑤ページ.

例：(1)九郎丸・他4 名 ，二重位相固定法による旋回失速セルの動画作成，ターボ機械，27-8(1999)，502.

(２)Inoue M.・他3名, Propagation of Multiple Short-Length-Scale Stall Cells in an Axial Compressor Rotor, Journal of Turbomachinery Trans. ASME,Vol.122(2000), 45.

＜書籍の場合＞

①著（編）者名，②書名，③巻（１巻のみの場合は不要），④（発行年），⑤ページ，⑥発行所．をこの順で記載する。

例：(1)井上・他２名,振動の考え方・とらえ方,(1998),84,オーム社.

(2)King,R.J., Tobin,M.G., Flow in a Centrifugal Fan of the Squirrel-Cage Type, Trans.ASME,112(1990),84

注１） 各項目は「，」（カンマ）で区切る。

注２） 著者が3名以上の場合には，第一著者名の後「・他○名」というように記載する。但し著者3名以上の場合でも第一著者名以外の著者名も記載することができる。和文の場合は，姓のみ記載し，著者と著者は「・」（センタードット）で区切る。

例：「山田・田中」，「中村・他２名」

また，英文（欧文）の場合は，姓を記載し「，」（カンマ）で区切ってイニシャルを記載する。著者と著者は「，」（カンマ）で区切る。

例：「Zimmerman, R., Harmon, H. A.」「Harmon, H. A.・他2名」

注３）誌名は省略形がある場合にはこれを使用する。

注４）発行年―月は西暦で記載する。なお，書籍の場合は発行月を省略してよい。

注５）ページは，雑誌の場合には最初のページ（通しページ）を用いて記載する。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

＜参考文献＞

(1)井上・他２名,振動の考え方・とらえ方,(1998),84,オーム社.

(2)King,R.J., Tobin,M.G., Flow in a Centrifugal Fan of the Squirrel-Cage Type, Trans.ASME,112(1990),84.

(3) Moore, J., Palazzolo, A., Rotordynamic Force Prediction of Whirling Centrifugal Impeller Shroud Passages Using Computational Fluid Dynamic Techniques, Trans. ASME, Journal of Engineering for Gas Turbines and Power, 123(2001), 910.

(4)鈴木・他5名，ふれまわり運動下で遠心型血液ポンプ羽根車に作用するロータダイナミック流体力の数値解析，日本機械学会論文集B編，74-738(2008)，121.